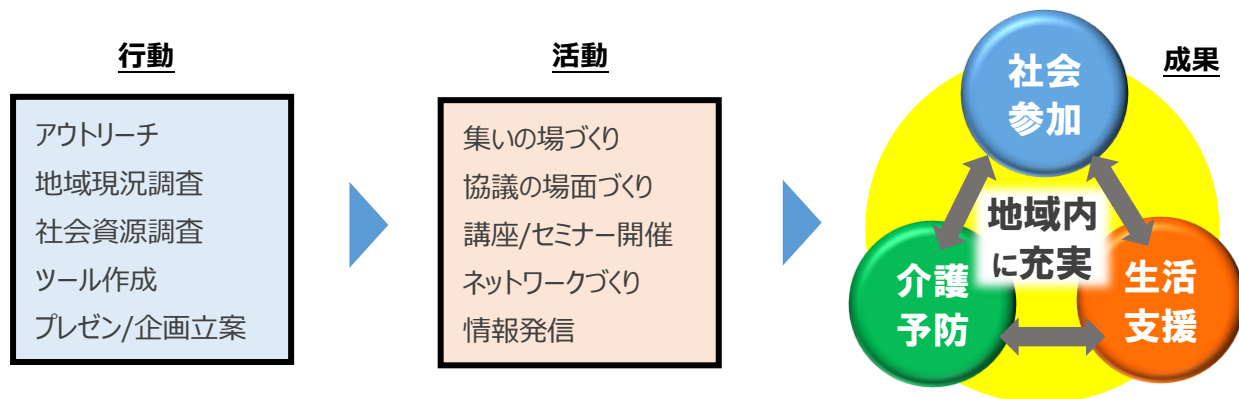


生活支援コーディネーター配置業務報告（2018年1月現在）

1. 業務概要

目的：超高齢社会の課題対応として、地域における『介護予防』と『生活支援』の取り組みを充実させる

内容：地域の現況をアウトリーチにて把握し、住民が主体的に必要な資源を創出するためのコーディネートを実践



社会的インパクト 地域活動が活発になり、社会参加の機会や介護予防/生活支援の取組みが充実する
→在宅生活ニーズの実現、要介護等認定者や介護保険給付費の減少にもつながる

2. 事業体制

- ・第1層生活支援コーディネーター（1名）・・全市エリアを担当
 - ・第2層生活支援コーディネーター（7名）・・日常生活圏域（概ね2中学校区）を担当
 - ※H29年度は中区（3圏域）・南区（4圏域）の2区に先行配置
 - ※コミュニティワーカー（CoW）、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の役割を併せ持つ
- 「日常生活圏域コーディネーター」として配置

～推進体制図～

第1層
(全市)

地域福祉課



第1層は第2層への間接支援
統計情報の整理/全市資源把握/全市ネットワーク化/事業とりまとめ/支援ツール等作成…など

第2層
(日常生活圏域)

区事務所【地域活動推進係】



第1
圏域



第2
圏域



第3
圏域



第4
圏域

第2層は圏域への直接支援
地域アセスメント/資源把握/区・圏域ネットワーク化
/集いの場づくり/協議の場面設定…など

3.実践内容（2017.4～2018.1）

アウトリーチを中心に地域とのコミュニケーション（地域活動への参加 / 会議へ出席 / 個別面談など）を重ね、地域の現況調査や社会資源情報の整理を行い、地域に必要な場面づくりに取り組んでいる

■.地域現況調査

- 1.地域特性の把握や分析/地域組織が抱えている課題や必要な資源の確認→アセスメントシートを作成
- 2.統計情報の活用（国勢調査データや高齢者人口データを活用し、校区単位での経年比較等を実施）

■.社会資源調査

1.施設等資源（ハード面）の整理

◎福祉/医療/教育/会館/公園/交通機関/コンビニ/スーパー/金融機関/郵便局…等をリスト化

2.取り組みや場などの資源（ソフト面）の整理

◎多様な協働資源のリスト化（※協働資源＝ヒト・モノ・カネ・場所・コト…で協力可能な主体）

・94件集約【内容：移動販売・各種講座・空きスペース提供・食材提供・備品レンタルなど】※2017.12月末時点

主体別内訳【1位：企業 **51%** 2位：法人 **23%** 3位：任意団体 **11%** …ほか】

※協働資源を可視化するポータルサイトの構築を、大阪府立大学_市民活動Voセンターなどと検討中

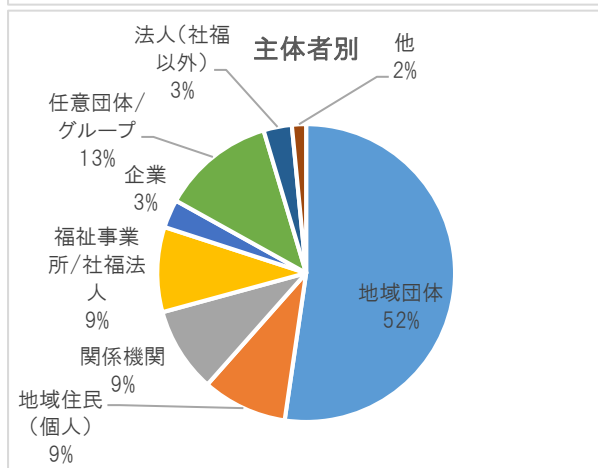
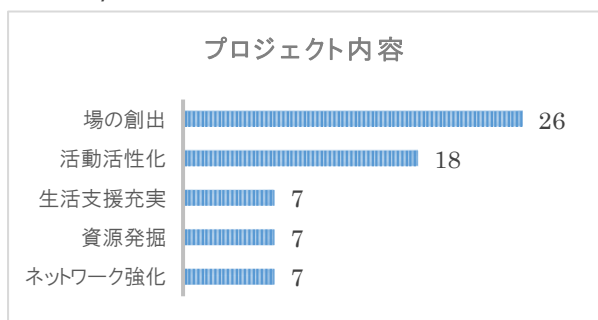
■.情報発信

1.第1層が中心となり、多様な主体への事業理解や問題提起を促す実践報告を実施

・17回/800人【地域団体：4回/220名 福祉関係者：9回/460名 企業：1回/30名…ほか】

■.社会参加/生活支援/介護予防につながる場面づくり

把握/関与しているプロジェクト 65件 【中：23件 / 南：42件】 ※2017.12月末時点



【事例：地域と法人が協働ですずめる介護予防】

発端

- ・地域「元気なシニア層を増やしたい」
 - ・法人「地域にもっと貢献していきたい」
- コーディネーターが把握し、話し合う場面を設定

創出した資源

- ・住民主体の介護予防教室（喫茶活動と併設）
 - ・法人主体の短期集中通所サービス
- 上記2つを身近な場所（地域会館）で実施

結果

機能低下が見受けられる地域活動参加者が、短期集中サービスを利用し機能回復

